水　産　の　窓

８－　Ｎｏ．20
令和８年 11 月 27 日
茨城県水産試験場

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。その資源量は、数年に一度おこる大規模な発生に支えられています。現在の資源は、H31 年（R 元年）以前に生まれたはまぐり（以下、H31 年以前の年級群）と R2 年級群、R4 年級群を主体に構成されています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、漁業調査指導船「せんかい（4.9 トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は、大洗町から神栖市にかけて約４km 間隔で設定した 18 地先の 91 定点（距岸 200～1,600　m）において、４～８月に実施しました。各定点では調査用小型貝桁網（桁幅 56　cm、爪間隔 24　mm）を最大 10 分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

（１）地先ごとのはまぐり平均分布密度

殻長 70 ㎜未満のはまぐりは、鹿嶋市平井の密度が最も高く（3.86 個/㎡）、ほかにも大洗町サンビーチ南（40HL 北）、浜欠（40HL 南）、鹿嶋市明石にも高密度（2.0 個/㎡以上）に分布していました（図１）。殻長 70 ㎜以上のはまぐりは、鉾田市大竹、鹿嶋市明石、平井、神栖市波崎といった地点に高密度に分布していました。

昨年と比較すると、大洗町サンビーチの 70㎜ 未満のはまぐりの密度は低下したものの、依然 70㎜ 以上のはまぐりの密度は高い～横ばいの状態でした。

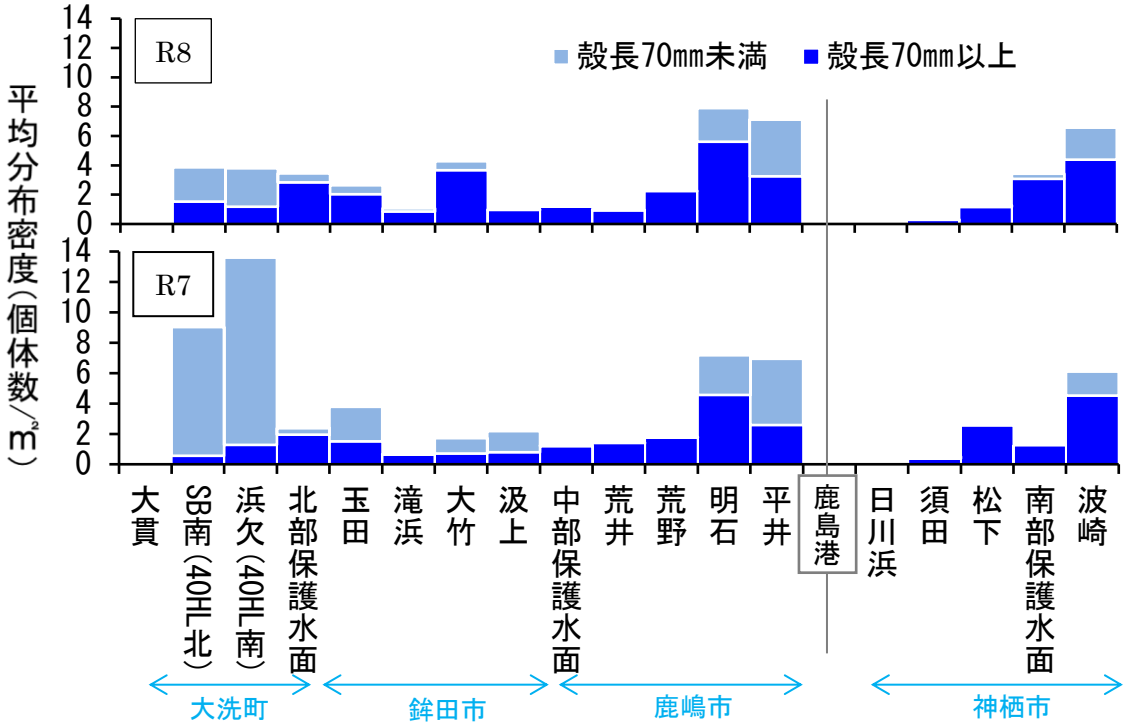


図１　地先ごとのはまぐり平均分布密度

（２）殻長組成

調査で採集されたはまぐりの殻長組成は、殻長 72㎜ をモードとする R２～４年級群が最も多く、それより大きい殻長 80㎜ 以上の H31 年以前の年級群も採集されました（図２）。また、昨年は 52㎜ 程度であった R４年級群が成長し、殻長 70㎜ 前後（R２年級群）程度の大きさまで成長しました。

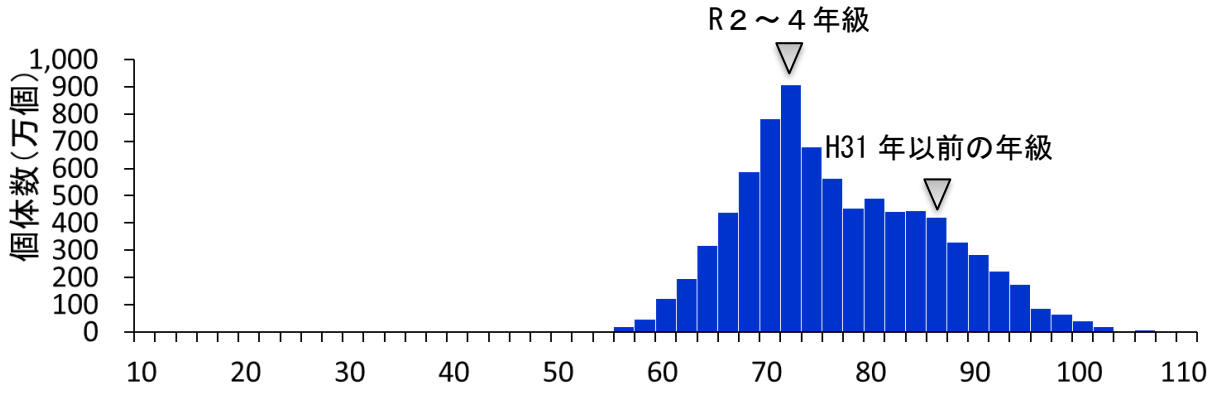


図２　はまぐりの殻長組成

（３）鹿島灘全体のはまぐりの推定資源量

以上の調査結果から、R８年の推定資源個体数は 8,161 万個、推定資源重量は 8,854 トンでした（図３）。前年（R７）の推定資源量（資源個体数 10,252 万個、資源重量 10,274 トン）と比較すると、個体数、重量ともにやや減少しました。

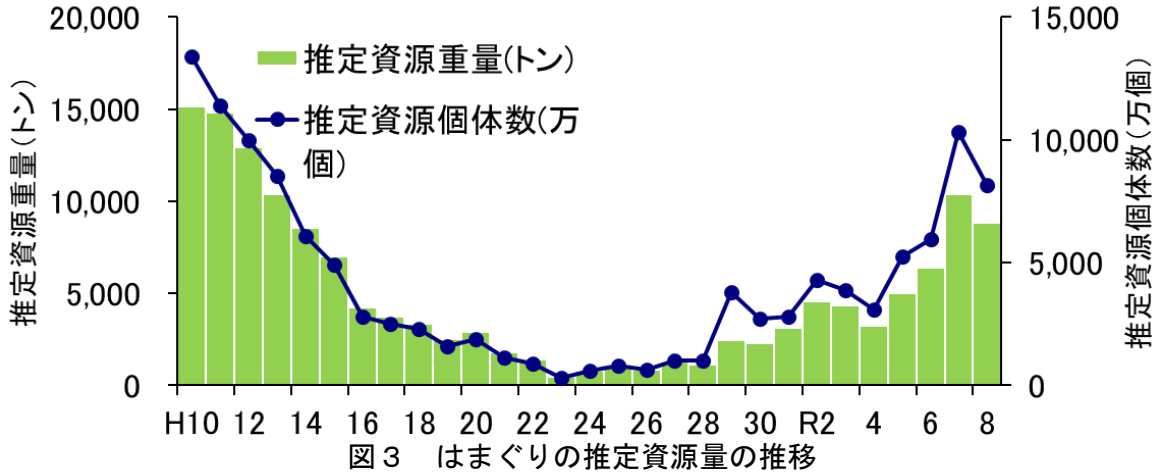


図３　はまぐりの推定資源量の推移

これまではまぐり資源を守るため、漁業調整規則による漁具の制限等のほか、輪番制やプール制といった漁業者による自主的な取組が行われてきました。その努力の結果、ここ数年資源は安定しております。今後は、それらの資源を大切に守りながら、いかに有効に利用するかを考える必要があります。

水産試験場では、引き続き資源評価などを通して漁業者の皆さまをサポートできるよう取り組んでまいります。

（定着性資源部　谷中　周平）

【次回予告】令和８年 12 月４日発行の水産の窓は「今季のマダコ漁の予測」を予定しています。